

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	京都府
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	京都府綾部市立中筋小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	19
児童数	51	60	48	49	64	54	3	329	

研究の概要

1. 研究主題

生きる力をはぐくむ「確かな学力」の育成 算数科少人数授業を中心にして
---------------------------------------

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> <li>2～6年・算数</li> </ul> <p>2年生から6年生まで、算数科の学力実態の2極化が見られ、落ちこぼし伸びこぼしの可能性があった。</p> <p>特に2年生においては、学習規律にも課題があり、算数科の課題を持つ児童も多い実態があるため、少人数で学習に取り組むことが効果的だと考えた。</p> <p>また、3年生から6年生では、算数科の内容理解において時間がかかり配慮が必要な児童もみられた。その克服方法として習熟の程度に応じた指導が効果的であると考えた。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>○テーマ</p> <p>生きる力をはぐくむ「確かな学力」の育成 ～個々の学びの力を伸ばす算数科学習を中心に～</p>
	<p>○研究方針(視点)</p> <p>ア 個に応じた的確な指導を行うため、児童の学力及び生活実態の調査・分析を工夫する。</p> <p>イ 児童個々の学びの力を伸ばすため、算数科の授業研究を中心に指導方法や教材開発ならびに評価の工夫改善を行う。</p> <p>ウ 児童の学びの力をはぐくむため、指導各部の取組を有機的に活かした総合的な取組や学習環境の整備を行う。</p> <p>エ 見通しをもち的確な指導をするために、「学力」及び授業改善に向けての理論研究や先進校視察等の実践研究を行う。</p> <p>○研究内容・方法</p> <p>ア 児童の実態把握</p> <p>(ア) 基礎学力診断テスト及びC D Tの結果を分析して、学力実態を明らかにする。</p> <p>(イ) 学習の基盤となる児童の生活や内面にかかわる調査を行い、児童理解を深める。</p> <p>(ウ) 日常の観察や実態交流等を通して、本校児童の共通課題を把握する。</p> <p>イ 授業研究</p> <p>(ア) 全学年算数科の授業研究を中心に、少人数授業・習熟の程度に応じた授業・個に応じた指導等、指導方法や教材ならびに評価の工夫改善に取り</p>

	<p>組む。</p> <p>ウ 生きる力をはぐくむ確かな学力の育成を支援する取組</p> <p>(ア) 各部の取組を「生きる力をはぐくむ」視点で位置付け、計画・実施する。</p> <p>(イ) 学びの力を伸ばすための学習環境を工夫する。</p> <p>エ 研修</p> <p>(ア) 「生きる力の基盤としての学力観」の中筋スタイルを構築する。</p> <p>(イ) 学力充実のための効果的な指導方法・評価等の理論研修をする。</p> <p>(ウ) 先進校視察を行う。</p>
--	---

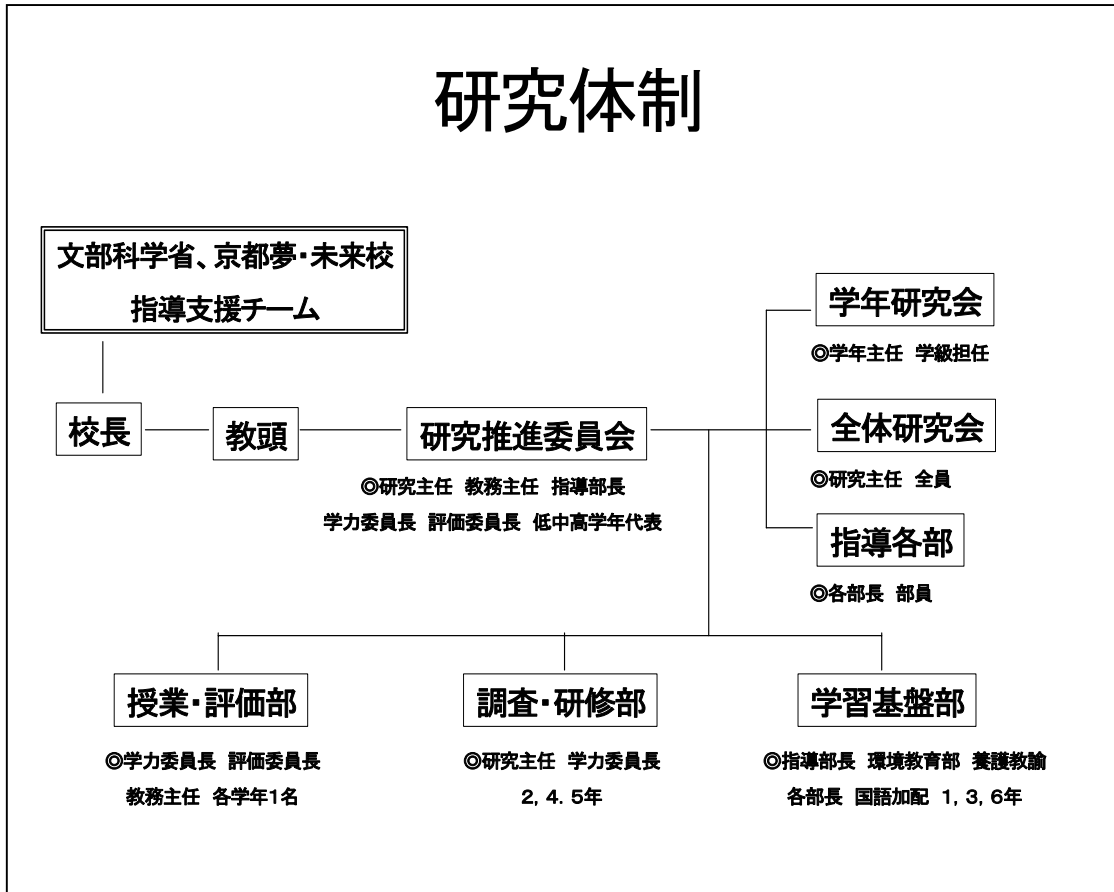
平成15年度	<p>テーマ</p> <p>生きる力をはぐくむ「確かな学力」の育成 ～算数科少人数授業を中心に～</p> <p>○研究方針（視点）</p> <p>ア 個に応じた的確な指導を行うため、児童の学力及び生活実態の変化について調査・分析を行う。</p> <p>イ 児童個々の学びの力を更に伸ばすため、算数科の授業研究を中心により効果的な指導方法や教材開発ならびに評価の工夫改善を行う。</p> <p>ウ 児童の学びの力をはぐくむため、指導各部の取組を有機的に活かした総合的な取組や学習環境の整備を進める。</p> <p>エ 見通しをもち的確な指導をするために、授業改善及び指導と評価の一体化に向けての理論研究や先進校視察等の実践研究を行う。</p> <p>○研究内容・方法</p> <p>ア 児童の実態把握</p> <p>(ア) 基礎学力診断テスト及びC D Tの結果を比較分析して、学力の変化を検証する。</p> <p>(イ) 学習の基盤となる児童の生活や内面にかかわる調査を行い、児童理解を深める。</p> <p>(ウ) 日常の観察や実態交流等を通して、本校児童の共通課題を把握する。</p> <p>イ 授業研究</p> <p>(ア) 算数科の授業研究を中心に、少人数授業・習熟の程度に応じた授業・個に応じた指導等、指導方法・形態や教材ならびに評価の工夫改善に取り組む。</p> <p>ウ 生きる力をはぐくむ確かな学力の育成を支援する取組</p> <p>(ア) 各部の取組を「生きる力をはぐくむ」視点で位置付け、計画・実施する。</p> <p>(イ) 学びの力を伸ばすための学習内容・時間・機会・環境等を工夫する。</p> <p>エ 研修</p> <p>(ア) 学力充実・向上の中筋スタイルを確立する。</p> <p>(イ) 学力充実のための効果的な指導方法・評価等の理論研修をする。</p> <p>(ウ) 先進校視察を行う。</p> <p>オ 学習内容の習熟の程度に応じた指導の具体的研究・実践</p> <p>(ア)指導方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導形態の多様化</li> <li>・習熟の程度に応じた問題解決型授業の改善</li> <li>・個に応じた指導の工夫（具体的評価規準）</li> </ul> <p>(イ)教材開発の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材研究の工夫</li> </ul>
--------	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近で生活に合った課題の開発</li> <li>・個に応じた教材・教具の開発</li> <li>・わくわく算数プリントの開発</li> <li>・ヒントカードの工夫</li> </ul> <p>(ウ) 評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体の評価規準の作成</li> <li>・パワーチェックカード(自己評価カード)の活用</li> <li>・教師の共同評価</li> <li>・ネームプレートによる自己評価の工夫</li> <li>・中筋テストによる評価</li> <li>・観察法による関心・意欲・態度の評価</li> </ul> <p>* 変更点・・学習内容の習熟の程度に応じた指導をさらに推進するため「指導方法の工夫」「教材開発の工夫」「評価の工夫」における研究・実践内容を焦点化した。</p>
--	--

平成 16 年度	<p>○テーマ</p> <p style="text-align: center;">生きる力をはぐくむ「確かな学力」の育成 ～ 個々の学びの力を伸ばす算数科学習を中心に～</p> <p>○研究方針(視点)</p> <p>ア 個に応じた的確な指導を行うため、児童の学力及び生活実態の変化にて調査・分析を行う。</p> <p>イ 児童個々の学びの力を更に伸ばすため、算数科の授業研究を中心により効果的な指導方法や教材開発ならびに評価の工夫改善を行う。</p> <p>ウ 児童の学びの力をはぐくむため、指導各部の取組を有機的に活かした総合的な取組や学習環境の整備を進める。</p> <p>エ 見通しをもち的確な指導をするために、授業改善及び指導と評価の一体化に向けての理論研究や他校との研究交流を行う。</p> <p>○研究内容・方法</p> <p>ア 児童の実態把握</p> <p>(ア) 基礎学力診断テスト及びC D Tの結果を経年分析して、学力充実・向上を検証する。</p> <p>(イ) 学習の基盤となる児童の生活や内面にかかわる調査を行い、児童理解を深める。</p> <p>(ウ) 日常の観察や実態交流等を通して、本校児童の共通課題を把握する。</p> <p>イ 授業研究</p> <p>(ア) 算数科の授業研究を中心に、少人数授業・習熟の程度に応じた授業・個に応じた指導等、指導方法・形態や教材ならびに評価の工夫改善に取り組む。</p> <p>ウ 生きる力をはぐくむ確かな学力の育成を支援する取組</p> <p>(ア) 各部の取組を「生きる力をはぐくむ」視点で位置付け、計画・実施する。</p> <p>(イ) 学びの力を伸ばすための学習内容・時間・機会・環境等を工夫する。</p> <p>(ウ) 研究成果を国語を核にして他の教科へも波及させる。</p> <p>エ 研修</p> <p>(ア) 学力充実のための効果的な指導方法・評価等の理論研修をする。</p> <p>(イ) 学力充実・向上の中筋スタイルを発信し、他校と交流を行う。</p>
----------------	---

\* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

( 3 ) 研究推進体制

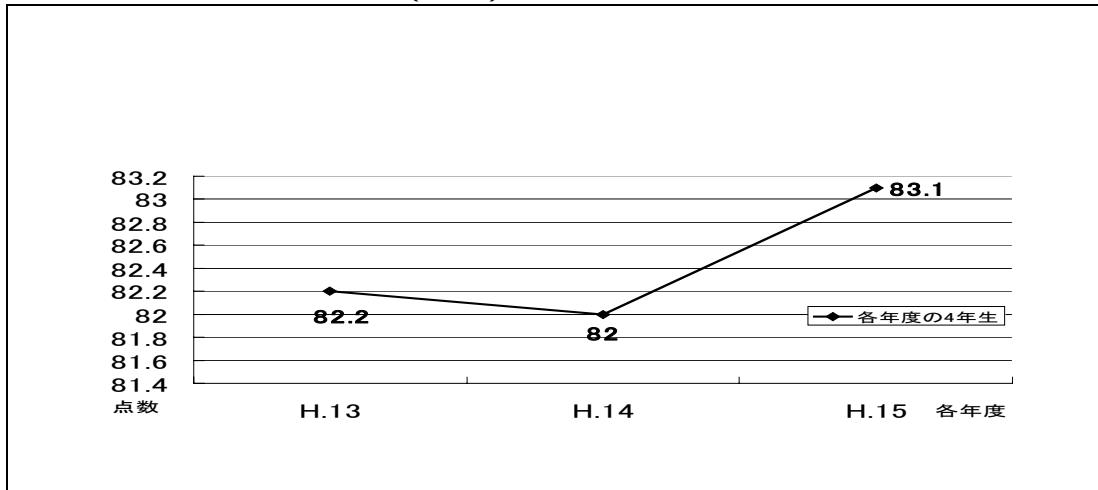


改善点・授業と評価の一体化を目指すため、授業部と評価部を一つの部とした。  
・学力向上には、基盤が必要だと考え、学習基盤部を設けた。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

ア 学力調査の結果（4年、6年をサンプルとして）  
基礎学力診断テストの結果（4年）

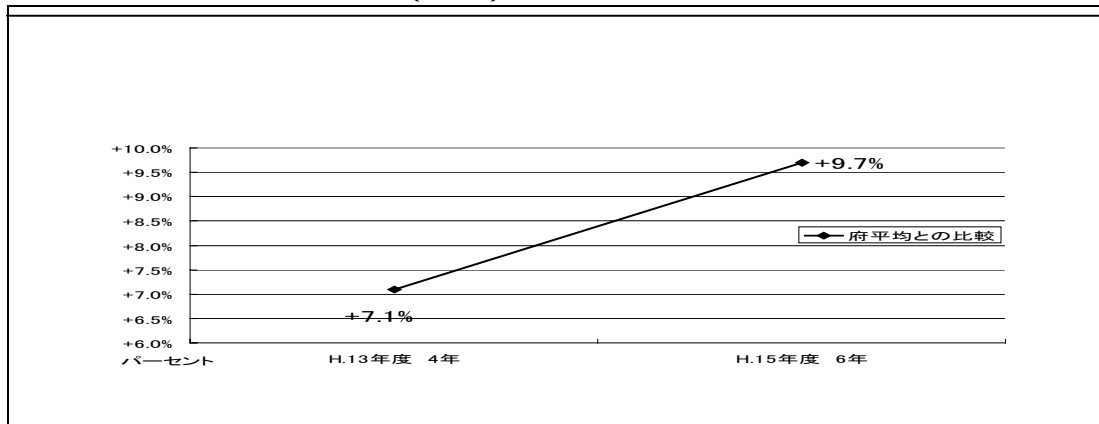


領域別の比較

領域	府平均（正答率）	本校（正答率）
数と計算	75.2	77.7
量と測定	78.6	81.7
図形	86.7	91.5
数量関係	87.1	92.6

観点	府平均（正答率）	本校（正答率）
数学的な考え方	72.2	74.2
表現・処理	85.9	92.4
知識・理解	80.1	81.4
総合	79.6	84.5

### 基礎学力診断テストの結果（6年）



領域	府平均（正答率）	本校（正答率）
数と計算	84.8	92.1
量と測定	71.9	82.4
図形	74.8	83.7
数量関係	70.4	85.6

観点	府平均（正答率）	本校（正答率）
数学的な考え方	75.1	84.5
表現・処理	77.1	88.9
知識・理解	81.4	89.1
総合	77.9	87.6

4年生・「十進法の表し方」・「乗法の計算の仕方」に弱さが見られたが、どの領域・観点でも府平均を上回っていた。

経年比較で見ると、平成13年、平成14年、平成15年で本年度が最も正答率が高かった。

6年生・「小数の除法」「円グラフのよみかき」に若干の弱さが見られたが、どの領域・観点でも府平均を上回っていた。

経年比較で見ると、府平均との平均点が7.1ポイントから9.7ポイントに上がった。

### イ 指導方法の工夫

(ア) 習熟度別指導(2学習集団編成)(3学習集団編成)、学級内の個に応じた指導など様々な形態で授業を行い、児童の学習意欲が高まり学力向上を図ることができた。

(イ) 授業展開の工夫や算数的活動の場面提示など、習熟の程度に応じた指導方法の改善ができた。

(ウ) 問題解決型的な学習の展開を工夫することで、自己解決能力が伸長し確かな学力の育成につながった。

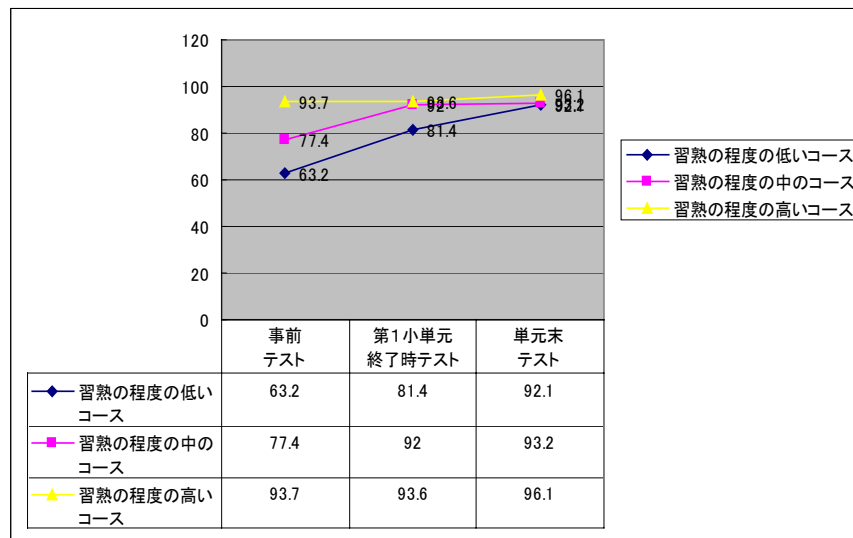
### ウ 教材開発の工夫

- (ア) 教材研究を進め身近な問題の開発を通して、児童の興味・関心が高まった。
- (イ) 習熟の差に応じた教材開発を通して、基礎・基本の徹底、発展的な問題への意欲付けなど、授業改善が進んだ。
- (ウ) 児童の実態に即したプリントや練習問題を作成し、基礎・基本の定着につながった。

### エ 評価の工夫

- (ア) 具体的評価規準を作成活用して毎時間の授業を進めることができた。
- (イ) 担当者相互の連絡調整を日常的に行い、指導と評価の一体化を図ることができた。
- (ウ) 日々の自己評価と本校の自作テスト（中筋テスト）の活用により、児童一人一人を総合的に評価できるようになってきた。
- (エ) 単元の研究ポイントを作成し、「指導方法」「教材開発」「評価」の関係が明確になった。

### オ 学習内容の習熟の程度に応じた指導による変容（6年生の体積の授業時のデータ）

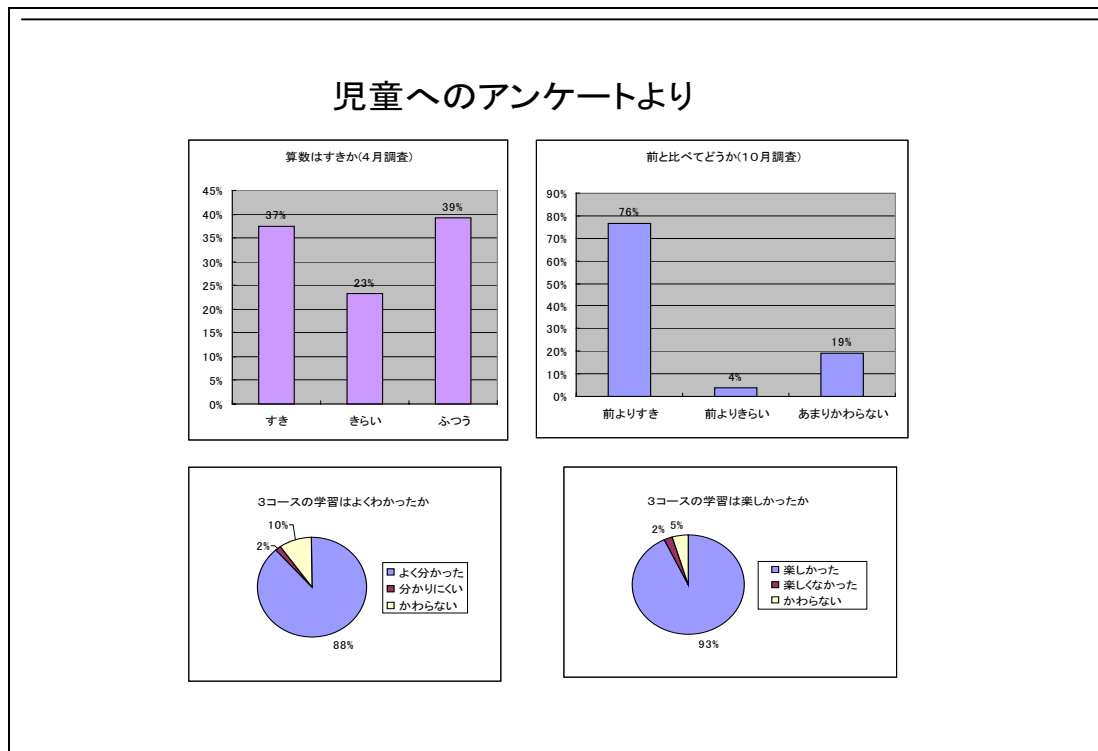


成果・ 学習内容の習熟の程度に応じた指導を研究、実践し、それぞれのコースにおいてきめ細かい指導を進めることにより、どのコースの児童にも学力の伸長がみられた。

また、少人数で指導することにより、問題解決型の授業も改善できた。

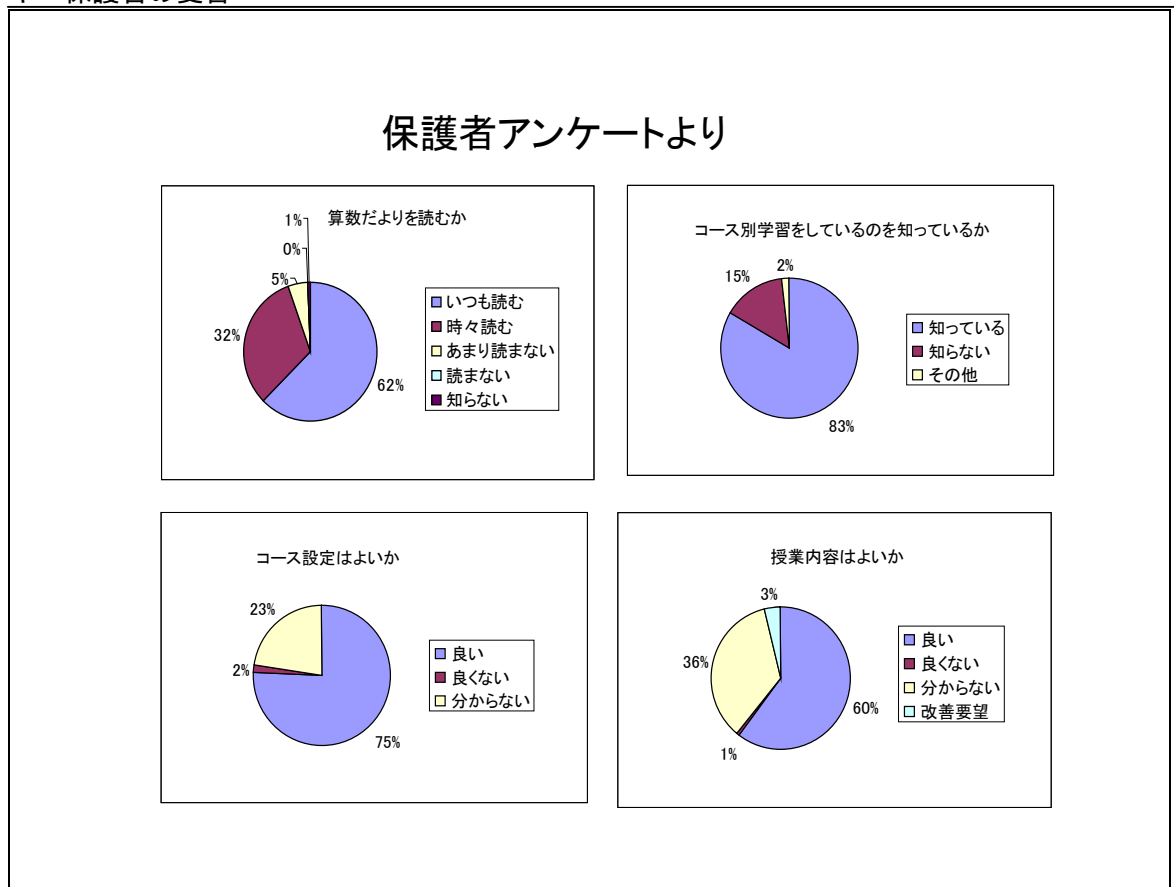
- ・ 問題解決型の展開が丁寧に指導できた。
- ・ 習熟の程度に応じて指導できるので、実態に合わせてより個別的な展開を進めることができた。
- ・ コースにより問題解決型授業の深さ、速さ、時間設定を工夫することができるので、児童の興味・関心をより向上させることができた。
- ・ それぞれのコースによる問題解決型授業の中で、自分に合った速さ、自分に合った時間設定、自分に合った教材との距離で学習ができるので、考える楽しさ、わかる楽しさ、自分で問題を解く成就感が味わえた。

## カ 児童の心情的な変容



成果・・ それぞれのコースで、わかる喜びや学ぶ楽しさを体感し、算数好きの児童が増加した。

## キ 保護者の変容



成果・・ 児童にプラス面の変容がみられたので、保護者も習熟の程度に応じた指導に理解を示している。

## 2. 今後の課題

- ア 児童一人一人に確かな学力をさせるため、さらに個に視点を当てた指導方法の工夫が必要である。
- イ 指導方法の改善を図るため、今後も指導技術向上の研修をすすめる。
- ウ 児童の実態を客観的に分析し、教材の本質を見極め、学んだことが活かせるような教材の開発をすすめる。
- エ 自力解決の意欲を促進したり援助したりするような教材開発を図る。
- オ 日々の評価の項目とその活用の仕方についてさらに工夫改善が必要である。
- カ 指導と評価のプロセスをさらに明確にするよう研修をすすめる。
- キ パワーチェックやノートにおけるまとめなど、自己評価能力をさらに高める。
- ク 算数科の成果を他の教科へも波及させる。

### 学力等把握のための学校としての取組

- 京都府基礎学力診断テスト
  - ・ 対象学年・・・4年生、6年生
  - ・ 調査の目的・・・前年度の学力定着把握
  - ・ 教科・・・算数、国語
- C D T
  - ・ 対象学年・・・2、3、5年生
  - ・ 調査の目的・・・前年度の学力定着把握
  - ・ 教科・・・算数、国語
- 年間計画
  - ア 1学期・・・基礎学力診断テストおよびC D Tの実施
  - イ 夏季休業・・・分析と回復事項の確認
  - ウ 2学期・・・回復指導
  - エ 2学期末・・・回復状況確認テストの実施・分析
  - オ 3学期・・・回復不足の指導
  - カ 3学期末・・・基礎学力定着プリント学習

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 【校内からの発信】
- 算数教育研究発表会（本校にて）
  - 実施日・・・平成15年10月28日
  - 内容・・・全学年 学習内容の習熟の程度に応じた指導の公開
  - 成果・・・近隣の研究主任が参加し、本校の公開授業を参観しレポートを作成した。そのレポートの項目に、「中筋小の取組をそれぞれの学校でどう活かすか」を設け、それぞれの学校に普及している。
- 学力向上フロンティアスクール綾部市立中筋小学校校内研究会（予定）
  - 実施日・・・平成16年2月 9日（月）
  - 内容・・・文部省吉川調査官による講演
  - 成果・・・本校の研究の方向性の確認  
近隣の学校の教員にも呼びかけ研修の機会とする。
- 【研究会・研修会における講師・発表者等として】
- 平成15年度学力向上フロンティアティーチャー研修会における講師
  - 実施日・・・平成15年6月27日（金）
  - 実施場所・滋賀県総合教育センター
  - 発表内容・フロンティアティーチャーの役割  
講話「特色ある実践事例や普及活動について」
  - 講話内容  
フロンティア事業における、研究主任や加配の取組  
研究計画・研究組織について  
どのように習熟度別事業を推進するか。  
保護者や地域へどう啓発するか。
  - 成果・・・本校の取組を滋賀県に普及することができた。



- 文部科学省平成15年小学校教育課程研究協議会における実践発表（総則部会）  
 実施日・・・平成15年11月13日（木）・14日（金）  
 実施場所・虎ノ門ホール、フロラシオン青山  
 発表内容・「学習内容の習熟の程度に応じた指導について」  
 ・形態の工夫  
 ・展開の工夫（問題解決型、算数的活動）  
 ・基盤作り（生徒指導の機能、教育課程の特色）  
 成果・・・中筋小学校の具体的実践の様子を全国に普及できた。  
 また、全国の動向を知ることができた。
- 平成15年度教員養成大学・学部等研究集会にて実践発表  
 実施日・・・平成15年12月13日（土）～12月14日（日）  
 実施場所・奈良教育大学  
 発表内容・「学力向上のために今、何をなすべきか」  
 ・学力向上のとらえ方  
 ・学力向上にむけての取組（学習内容の習熟の程度に応じた指導）  
 成果・・・学力向上にむけて理論的側面と実践的側から交流できた。
- 平成15年度京都府小・中学校教務主任会研修大会  
 実施日・・・平成16年1月16日（金）  
 実施場所・京都府教育センター  
 発表内容・「個に応じた指導の充実と教務主任の果たす役割」  
 ・習熟の程度に応じた授業  
 ・教務主任の役割（教育課程の工夫・時数の確保）

【視察の受入れ】(主なもの)

- 亀岡市立千代川小学校  
 ・日時・・・平成15年5月13日（火）13：50～16：30
- 綾部市校長会  
 ・日時・・・平成15年9月12日（金）13：00～15：00
- 丹後教育局学力向上対策会議委員  
 ・日時・・・平成15年9月25日（木）13：50～16：30
- 鳥取県境港市立誠道小学校  
 ・日時・・・平成15年11月16日（木）・17日（金）
- 亀岡市教務主任会  
 ・日時・・・平成15年11月20日（木）13：30～16：00
- 徳島県美馬郡小学校校長会  
 ・日時・・・平成15年12月5日（金）14：00～16：00
- この他にも市内外から視察があり、本校の取組を普及した。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】            15年度からの新規校         14年度からの継続校
- 【学校規模】                    6学級以下                    7～12学級  
 13～18学級                    19～24学級  
    25学級以上
- 【指導体制】                     少人数授業                     T.Tによる指導  
    一部教科担任制                    その他
- 【研究教科】                    国語                    社会                     算数                    理科  
    生活                    音楽                    図画工作                    家庭  
    体育                    その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】         有                    無